



## 園児の共通の話題



理事 薄井 賢志

新元号「令和」が始まって一か月が過ぎました。この原稿を書いているのは四月で、新元号が発表されて間もないのでこの話題で持ちきりです。私も家にあった一度も開いていなかった「万葉集」を引っ張り出して、「ここに書いてあるのか」などとつぶやきながらページをめくりました。この文章が出る六月の頃には新しい元号にも慣れ、「万葉集」も元の本棚に戻っていることでしょう。

やってきた「令和」の時代に子どもたちはどのように成長してゆくのでしょうか。「昭和」中ごろの時代に子どもだった世代としては、朝登校した子どもたちが前日のテレビの話をしたり、男の子がヒーローになりきって大勢で走り回ったりするのが当たり前の光景でした。

最近子どもたちがテレビのヒーローやお笑い芸人の話をすることが減った気がします。ヒーローやお笑い芸人に以前のような多くの子どもたちをひきつける力が無くなったこともありませんが、テレビ自体を観なくなっていることも一因ではないでしょうか。

また、園生活以外では常にスマホやタブレットを持ち歩き、自分の好みの動画やゲームをすることが多くなって、クラスや園全体で共通の話題となることが少なくなっているように感じています。

幼児の子育てをスマホやタブレットに行わせることは大いに論議のあるところですが、その一方でテレビが持っていた幼児の共通の話題について考えてみると、テレビやラジオが普及する以前のコミュニティでは共通の話題はそのコミュニティ内での出来事がほとんどでした。小さい子どもたちは自分たちより年長の子どもたちから教えられた遊びや話を吸収し共通の話題として楽しんでいました。

今の保育園は昔のコミュニティが持っていた共通の話題づくりを行う大切な場所になっています。ベテランの園長先生や保育士さんから見ればそのような話は釈迦に説法ですが、若い保育士さんにむけては、目の前にいる子どもたちへ共通の話題作りをする仕掛け人としての役割を、スマホやタブレットから奪いとってほしいと思っています。これを今のうちに認識しないとAI機能の発達した機械にその役割すら持って行かれるかもしれません。血の通った者同士の会話こそ脳の生育に必要なのではないのでしょうか。

この冊子が届くころ、立川で日本保育協会の関東地区保育者・女性部合同研修会が開催されます。関東各地区の保育に携わる人たちと血の通ったものどうしで交流を深めたいと思っています。